

トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム(カナダ・ガーナ) 活動報告書(7月)

平成 30 年 8 月 7 日

獣医学群獣医学類 3 年 前田沙優里

8 月 3 日をもって、私のサスカチュワン大学での研究留学は終了した。現在、私はガーナのビザを取得すべくカナダの首都オタワにいる。今回の報告書は、カナダでの留学の総集編として、かつ次のガーナでのボランティア活動に繋げる目的として、今までの 10 か月を振り返る内容、「得たもの」と「失ったもの」について書くこととした。後者に関しては、トビタテ！留学 JAPAN の事前研修で出会った仲間と得るものの代替となる失うものが大きいほど本気になれるという話をしたのを思い出したためだ。



写真：通りすぎたオタワの市庁舎(おそらく)。未だ観光はできていない。

1. カナダでの留学で得たもの

・繁殖の研究スキル

第一に挙げられるのは、やはり「研究」の仕方すら知らなかった学部生の私が、最後には、一人で自分の研究を進められるようになったことだ。各ステージにおける牛胚の Oil-Red-O 染色、DAPI 染色による、大きさ別の脂肪滴の数と核の数を調べていた。スキルとしては、卵のハンドリング、様々な染色液の使用法、標本作成ができるようになった。他にも、未成熟卵のステージが見分けられるようになったり、卵胞液から卵を取り除けるようになったりした。雄牛に関しては、精液の採取から、精子の検査、冷凍保存まで一連の流れを学んだ。リヤマの採血やバイソン卵の研究に関わるなど日本ではなかなかできないであろうことも経験できたのは留学した甲斐があったというものだ。また、研究のやりがいは自分の知的好奇心を満たすことだと想像していたが、達成感のなんともいえない喜びという方が大きい気が今ではしている。

・国際学会への参加が可能に

私の名前も載ったバイソン研究の論文が来年 1 月にアメリカで行われる国際学会に提出

されたため、大学の試験との兼ね合いがうまく取れれば、私も学会に参加する予定である。

・英語力の向上

英語力 4 技能を測る試験 IELTS は、カナダ渡航前から Over all スコアが 1.0 ポイント向上した。各 4 技能も全て 0.5~1.0 ポイント上昇。これにより、海外大学や大学院への正規入学が可能となるラインまで到達した。また、疲れていない状態で深い議論に発展しなければ、英語上手だねと英語圏の人に言われるようになった。だが、あえて言いたいが、ただ海外で生活するだけでは全く語学力は上がらないことも理解した。特に私は、研究についていくため、ネイティブでも知らないような専門用語を覚えることに必死になりすぎて、全く日常会話が向上しない半年間に苦しんだ。自然に身に着くのは一部の才能ある人のみで、海外にいても語学力が向上するかは本人の努力次第である。

・日本のことをより理解するように

日本についての多くの質問を受けることや、カナダと比較すること、各国の友人から自国と日本の関係について話を聞いているうちに自然と日本について詳しくなれた。また、自分が日本人であることの誇りも強くなったと思う。ちなみに、一番深く印象に残っているのは、日本への牛肉の輸出審査は非常に厳しく、小さな問題があれば送り返してくる上に、大金をその輸出会社に支払うことで安全性を確保しているという話だ。

・様々な地に旅する機会

留学の前後、期間中に訪れたカナダ内の都市は、留学先であるサスカトゥーンの他に、トロント、バンクーバー、ナイアガラフォールズ、モントリオール、ケベックシティ、イエローナイフ、バンフ、オタワ。VIA 鉄道でロッキー山脈も越えた。カナダ外では、キューバ 3 都市とアメリカ合衆国のアラスカとシアトルに旅した。バンフ国立公園とアラスカのデナリ国立公園では、現地でボランティアをしているトビタテ！留学 JAPAN の友人に案内してもらい、改めてこの留学支援制度の大きな利点のひとつに学生同士の繋がりがあると感じた。ガーナに行く前には、モロッコに 1 週間立ち寄る予定だ。また、日本への帰りはトランジット時間を利用してトルコのイスタンブールを観光できたらと考えている。日本からだとなかなか航空券が高くて行けない場所に行くとても良い機会だろう。

・将来の可能性

獣医学部は閉鎖的な学部だと思う。他の学部の学生と知り合う機会もあまりなく、そもそも獣医師免許が海外でそのまま使えないのだから海外への視野も狭まる。日本で就職先に困ることもまずないだろうから、日々のテストや 6 年時の国家試験に目が向きがち。そんな中、学部生のいまカナダに留学したことで、自分の将来の可能性が大きく広がった。まず、日本に留まる必要がない。臨床経験を積んでから博士号を目指す道もある。変な話、高給を求めたくなったらカナダやアメリカに行くという選択もある。6 年間学生を過ごして、国家試験に受かって、就職または進学という流れに従う必要などない。いつからでも自分のしたくなったことを始められるし、それで職に困るような心配をする必要もないと

いうことを周りの人たちから学んだ。

・個性という自信

日本では、太るのはよくないこと、日焼けは大敵、最低限の身だしなみはしっかりと。そんな風潮がある。カナダで私が太ったと言え、それだけ魅力的になったことだから良いことだと言われ、日焼けして休暇から戻ると、楽しんできた証だね！いいね、と言われる。他にも互いの良いところ(例えば目や髪の毛の色)を指摘しあうのは本当に素敵だと思う。お互いの個性を尊重し、自分や他人のいい部分に目がいくようになった。

・たくさんの友人ができた

私が留学先を離れる際、研究室の院生たちがお別れ会をしてくれた。最後にはハグを交わし、また会おうと約束しあうような、仕事だけの関係性ではない大切な友人としての関係を築けた。さらに、仲良くしていた韓国人の友人たちともサムギョプサル・たこ焼きホームパーティでお別れをし、インド人の友人家族からはインド料理を振る舞ってもらうなど、離れる前にいろいろな人から会おうと声をかけてもらえた。世界中に散らばった語学学校時代の友人たちとも今でも連絡を取り合っている。何かあれば常に支えてくれる人がいたこの10か月間、本当に人に恵まれていたと自信をもって言える。私は、これが、留学で得た一番大切なものだと思う。



写真:メキシコからのビジターの教授のお別れ会。私のお別れ会時は集合写真を撮り忘れた。
ちなみに、この中にカナダ人は1人しかいない。(中国系カナダ人)
それだけ国際色の強い研究室だ。

2. 留学で失ったもの

改めて、何を失ったのか考えてみた。

・同学年の友人たちと共に卒業できない。

私は、これは完全に獣医学部特有の問題だと思うのだが、毎日同じ授業や実習を受け、共に果てしなく続くテスト期間を乗り越えてきた友人と学年が変わるのは悲しいものだ。

しかし、学年が変わろうと、チャットアプリの LINE を退会しようと、定期的に連絡をとりあい、時にはカナダに遊びに来てくれ、誕生日にはメッセージをくれるような友人がいる有り難さにも気付いた。

・お金？

酪農学園は有り難いことに休学期間に学費を一切支払う必要がないのだが、強いて言えば、1年分の人生における給料分を失った。だが、その分トビタテ！留学 JAPAN から返済不要の奨学金を頂いているので、あまり大損はしていない気もする。

・喪失感

まさに今の私の状況だ。上述したように、人に恵まれすぎていたので、その分留学先の人との別れの悲しみは尋常ではない。しばらくは引きずりそうである。

・日本女性のファッションセンス

今ではカナダ人と同じように、髪は結んで T シャツにレギンスだ。楽なので。ちなみに朝は1時間準備と朝食にかかっていたのが15分になった。ただ、オタワにはおしゃれな女性が多く現在困惑している。

・ペットと過ごす時間

買っていたハムスターの死に際に側にいらなかったことが唯一の後悔だ。ペットを飼いたいけど、海外にも行きたいという感情は最大のジレンマだと思う。

正直な感想としては、失ったものより得たものが多かった。得たものというのは、達成したものととも考えられるので、振り返るためにも達成しなかったことについても書いておこう。

廃棄食材で日本食を作るイベントをしたいと考えていたのだが、達成しなかった。というのは理由があり、日本の方がよほど廃棄している印象がみられたことだ。カナダでは、フードバンクがより身近だ。スーパーにはいらぬ食品をいれる箱が置いてあり、寄付される。賞味期限も日本より長く設定されており、棚だしの期限も長い印象だ。食べ物だけではない。洋服も寄付するという選択がある。道路に洋服用のドナーボックスが置いてあるのだ。日本語の「もったいない」ということば、もう一度日本でも考え直す必要があるのではないだろうか。

3. おわりに

「留学したら人生変わった。」とか、「海外行ったら成長する。」とか正直私はそんな感想は持てない。そう簡単に人生変わられても困るし、人間どこでもとりあえず住めば馴染む、特別な努力をしなくとも生活する分にはなんとかかなるという意見だ。だが、この経験が、何年か先の自分、何十年後の自分に影響を与えて、後からあのとき留学したから今の自分があると思えたら幸いだ。

今はガーナビザを無事に取得できることを祈るのみなのだが(ビザは東京の大使館で取る

ことを強くおすすめする)、日本でもカナダでも支えてくれる人たちに感謝して健康に帰ってくるのが第一目標だ。日本語ではなかなか情報が手に入らない西アフリカのひとつであるガーナについて今後は発信していこう。

ガーナではアクアパムという丘の上の小さな町に派遣されることとなった。動物病院にてボランティア活動を行う。バケツのシャワーもガーナ料理も楽しみだ。当初の留学計画の目的である、「ガーナにおける獣医学的視点からの問題点を発見する。根本的解決策を考える。」

「日本とカナダ、ガーナを比較する。」ということを念頭におき、充実した4週間を送りたい。



写真：サスカチュワン州らしい景色、キャノール(菜の花)畑。すでに思い出深い。